
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 377 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2015.04.17（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1033 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言>

“食”と“農”を狙って、安倍政権が放った“三本の矢” 塩谷哲夫

<第 151 回 定例研究会（05/16）のご案内>

テーマ：「新基本計画」＝農政改革の車の両輪を問う

講師：市田知子 氏（明治大学教授）・森島 賢 氏（立正大学名誉教授）

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> 「言論の自由」を空言にしないために

<巻頭言>“食”と“農”を狙って、安倍政権が放った“三本の矢”

この 3 月、霞が関から相次いで 3 本の鎗矢が放たれた。

一本目は食品表示法を所管する消費者庁から放たれた“体に良い”食品につ
けられる「機能性表示食品」である。

健康食品には(1)特定保健用食品（トクホ）と(2)栄養機能食品があった。
(1)は国が審査し、許可する。(2)は販売者の自己認証でよいが効果成分はビタ
ミン（12 種）とミネラル（5 種）に限定されている。ところが新制度の「機能
性表示食品」は販売者側が“科学的根拠”論文があれば「〇〇を良くします」
といった具体的な効果を表示できる。加工品やサプリメントだけでなく生鮮食
品でもよいのである。食品業界にとってだけでなく、有機農産物や伝統野菜・
果物などにもこの制度を活用できるチャンスがあると思われる。ただし、偽物
食品も出やすいので監視が必要である。

調べてみたら、この制度は、アメリカを見習った健康産業の創出プログラム
の一環らしい。国民の健康よりも、産業活性化にウエイトがかかっている臭い

がする〈僻目かな?〉。

二本目は厚生労働省から放たれた“健康な食事”につける黄・赤・緑の三色マークである。

2015年版の食事摂取基準に基づいて、「健康な心身の維持、増進に必要とされる栄養バランスを基本とする食生活が、無理なく持続できる」“健康な食事”をとることをわかりやすく示そうということが狙いらしい。コメ、パン、麺類などの炭水化物食品は黄色、魚や肉などのタンパク質食品は赤、緑黄色野菜、キノコ、海藻などのビタミン、食物繊維などの多い食品は緑の表示を付けるそうである。今や外食、中食（弁当、総菜など）が国民の食糧費の半分に迫ろうとしている。この春から、スーパーの店頭や食堂のメニュー、学校給食に3色マークがあふれることになるかもしれない。

国家がこんなにも国民の健康を考えてくれたのかとありがたかった。ところが、「参考資料」まで読み進むと...これは政権の「日本再興戦略—JAPAN is BACK」の健康寿命延伸産業の創出プログラムに基づくものだとわかった。国民の健康と産業振興を結び付けて考えるなんて...霞が関がやけに張り切っている〈僻目かな?〉。

三本目は農林水産省から放たれた“いざとなったらイモを食え”宣言を含んだ「食料・農業・農村基本計画」である。これには驚かされた。

「基本計画」は日本の食・農の現状を分析し、これからの方向・施策を総合的な視点から策定したものである（それについての評価は改めて述べたい）。ここでは、「食料自給率」の低さ（H25年度39%）を懸念する多くの国民の声に応えるという意気込みで、新たに登場した「食料自給力」についてのみコメントする。

そこで述べられていることは、“試算してみたら、「不測の事態」が発生した場合は、我が国農業の「潜在生産力をフル活用」して食料を生産すれば、国民には、何とか体重を保てるだけの必要熱量（カロリー）を供給できるから心配するな。イモを食えば何とかしのげる”ということであった。そして、このことについて、「平素から...国民の正しい理解を得ていく」ようにしたいと繰り返し書かれている。まるで戦争になる〈戦争をする〉ことを想定していると思えない。

頭上を飛ぶ鎗矢の音に触発されて調べてみたら、「健康増進法」などによって、こんなにも私たちの食が国家の統制・管理の下にあったのかと改めて考えさせられた。同時にその背後には産業振興があるということも分かった。

京大の藤原辰史さんによれば、国家が食べ物を握る、栄養学が普及したのは、国家が「健康な兵士と労働者を育てるため」だったそうである。彼の書いた『ナチスのキッチン』を読んでみよう。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<第 151 回 定例研究会 (05/16) のご案内>

テーマ：「新基本計画」＝農政改革の車の両輪を問う

TPP 交渉、農協・農業委員会改革など、農家と農業関係者に関わる問題が政府主導にて進められています。3月31日には新しい食料・農業・農村基本計画が閣議決定された。アベノミクスの成長戦略の1つである農政改革は、「強い農業（産業政策）」と「活力ある農村（地域政策）」を車の両輪として展開すると位置づけています。だが、どうも「強い農業」が前面に出ており、「活力ある農村」への道がよく見えません。車は、両輪のバランスが必要です。EUの農政と比較し話し合います。皆様の多数の参加をお待ちしています。

1、日時：5月16日（土）13：30～17：00

2、場所：NTC コンサルタンツ(株)会議室

東京都中野区中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー20F

地下鉄：東京メトロ丸ノ内線 中野坂上駅下車

中野坂上交差点方面改札～1番出入口、交番のある一画

3、話題提供と質疑応答

1) 解題

小泉浩郎 氏（山崎農業研究所 所長）

2) 「EUの農政改革と農村」

市田知子 氏（明治大学教授）

3) 「新基本計画と地域協同組織」

森島 賢 氏（立正大学名誉教授）

4) 総合討論

※参加費：500円

4、意見交流会&懇親会

※話題提供者を交えての自由な意見交換会 参加費：4000円

□参加申し込み：参加希望者は事前に下記へご連絡下さい。

□会員外の方も参加できます。知人への参加呼び掛けをお願いします。

TEL：03-5333-2051（益永）

e-Mail：y.masunaga@ntc-c.co.jp

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.135』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.135』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）

「耕」について考える◎塩谷哲夫

[第149回定例（現地）研究会] 家族協定による畜産業経営
農業を守り暮らしに生き甲斐を◎小泉浩郎

〔報告1〕生活改善普及活動と家族経営協定◎阿久津加居

〔報告2〕家族経営協定で酪農経営の複合化

——酪農・教育ファーム・牧場カフェ◎人見みゆ子

参加者の声◎樋口直美／小林俊夫／熊澤喜久雄／服部朋子／益永八尋

[第150回定例研究会] 自然災害を考える新たな視点

I 溪流保護から見る土石流災害と砂防問題◎田口康夫

[特別寄稿]

・土砂災害にみる災害リスクの回避についての考察◎渡邊 博

・広島市土砂災害から森林問題を考える◎大内正伸

・キューバの防災対応◎吉田太郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(6)

百姓仕事の精神性—情愛からタマシイの世界への道／宇根 豊

〈農村定点観測〉

- ・語りつぐシルバーへの途（みち）／茨城県・大河原幸一
- ・「飽食の時代」に思う／長野県・橋戸良知
- ・飼料用米、本格生産の課題／新潟県・吉原勝廣

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5版・30ページ)が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み500円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みゆ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を

埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)

No.2 世羅高原のそよ風になりたい

広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)

No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい

鳥取県鳥取市 西山徳枝さん (小泉浩郎聞き書き)

No.4 働きやすい作業環境の改善

徳島県 藍住地区のお母さん達 (小林徳子聞き書き)

No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い

茨城県大子町 齊藤キヌ子さん (臼井雅子聞き書き)

No.6 デパートに進出した農村女性

栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ (阿久津加居聞き書き)

No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる

群馬県嬭恋村 丸山みち子 (丸山みち子著)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市 人見きみ子さん（阿久津加居聞き書き）
No.9 （近刊） 月に手が届く山間農家に嫁いで
高知県土佐町 和田計美さん

<編集後記> 「言論の自由」を空言にしないために

テレビ朝日の「報道ステーション」でコメンテーターの古賀茂明氏が番組中、自身が官邸から強い圧力をうけていると述べた（3月27日）。このことについて菅官房長官は事実無根と述べているが、その後の情報をみると、「やはり」古賀氏への圧力はあったとみたほうが妥当らしい。

同様の事柄＝政府からの圧力は随所で行なわれていることがだんだんと見えるようになっている。

たとえば Japan Times 紙に、Frankfurter Allgemeine Zeitung の特派員が安倍政権に対する批判的な記事を書いた際、フランクフルトの日本総領事が、同紙を訪れ記事に対する抗議を行なったという内容のコラムが掲載された（4月14日）。

http://blog.tatsuru.com/2015/04/15_1013.php

自民党の谷垣禎一幹事長は、昨年11月のテレビ朝日の報道に対し「公平中立な」番組作りを党報道局長名で要請していたことについて、「個人として（報道機関に）抗議したことがあるが、言いたいことがある場合も抑制して言っている」と述べている（4月10日）。しかしこれは、うらをかえせば「やさしい言葉で言ってますけど、こちらは相当怒っているんですよ、わかってますね？」と恫喝するに等しいのでは、と思うのは、こちらが小心者だからか。

自民党は、17日の会議にテレビ朝日と、「クローズアップ現代」で「やらせ」があったと指摘されているNHKの関係者を呼んで事情を聴く方針だという。このままでは「言論の自由」は空言になってしまいかねない。ジャーナリスト諸氏の発奮（発憤）に期待するとともに、市民であるわたしたちも声をあげつづけてはならないだろう。

田口 均
2015年04月17日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバル化の次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 378 号の締め切りは 04 月 27 日、発行は 04 月 30 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 377 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2015.04.17（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』*****